

女の子だってできるわ！

小六

私は、日本に来て四年経ちました。

日本はとても素敵な場所で、女性も男性も自由で、安心安全な生活を送っています。学校もとても楽しいです。けれども、外国のいくつかの国では、女性がそのように暮らせないところもあります。今このときも、そうなのです。

私の国は、アフガニスタンという国です。

今、アフガニスタンには厳しいルールがあり、特に女性がつらい思いをしています。

私はそのせいで日本に来ました。

ルールを作った人たちは、

「女の子たちは、学校に行っていない。自由に暮らしてはいけません。」

と、言っています。私も女の子だから、私の親は心配しました。父はアフガニスタンで日本の人と働いていました。心配している父を見た、父の会社の社長は、

「日本に来ていいよ。」

と父に言ってくれたのです。その数か月後、私たちは、大好きなおじいちゃん、おばあちゃん、学校の仲間、しな友達、我が家などの全てと別れ、日本に来ることになりました。

最初に日本に来たときは、日本の学校に行くのがこわくていやでした。しかし、実際に行ってみると、日本

語は分からなかったけれど、学校の中はとともきれいで、人々は私に本当に親切でした。私は日本語教室に通い始め、日本語が少しずつ分かるようになりました。次第に学校にも慣れ、友達と仲よく過ごすことができるようになりました。毎日とても楽しいです。

私は、日本に来て感じたことがいくつもあります。日本はとともきれいで、みんなが親切です。犯罪は少ないし、安心安全でとてもいい国です。一番いいのは、女の子も男の子と同じように過ごすことができることです。

私の国ではちがいます。例えば、女性は昼しか外出することができません。また、中学校からは、学校に

行けません。男子とあまりかわることできません。いっしょに遊ぶこともできません。アフガニスタンでは、女性は自由に暮らすことができず、女の子は大きな夢をもつことができません。好きなことを思いきりすることもできません。私は日本の女性を見て、アフガニスタンも日本のように、女の子も夢をもてるような国にならなければならないと強く感じました。

日本のニュースで、アフガニスタンの人々のかわいそうな写真や、心が折れるような女性の話を見聞きしました。そして、その瞬間、しゅん「私は大統領にならないといけない」と思ったのです。そのときから、私の夢は、アフガニスタンの女性大統領になる

ことになりました。私の国では、女性で大統領になった人は誰もいません。しかし、私が大統領になれば、女性を勇気づけ、政治家になりたい人が増えると考えたのです。この日本でも、まだ女性の総理大臣はいません。だから、私は言いたいです。女の子だってできるのです。女性も男性も、少しのちがいがあるだけで、同じ人間です。それなのに、女の子たちが差別されるのはおかしいし、本当によくないことです。今も、私の国では女性たちが苦しい思いをしています。だから、私は絶対にあきらめません。

私は、日本に来ることができてよかったです。なぜなら私は、大きな夢をもつことができたからです。女

の子だって、どれだけ大きな夢でももつことができる、知ることができました。体操選手だって、大統領だって、男の子以上に活やくすることだってできる。何にでもなれるのです。そして、私はあきらめないで、夢を実現させられるようにがんばっていきたいです。

私は、世界の人々が男女関係なく、平等に活やくできるようになることを願っています。そうすれば、世界はもっともっと平和になると思います。みんなが同じように大切にされる世界を、みんなと目指していききたいです。

※本作文は令和七年五月に書かれた作品です。